

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799100066		
法人名	株式会社カムネスライフ		
事業所名	グループホームここから加島Ⅱ		
所在地	大阪市淀川区加島4丁目2番30号		
自己評価作成日	平成23年6月6日	評価結果市町村受理日	平成23年8月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成23年6月27日(月)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定期的な町会との公園掃除・保育園との交流 また 散髪は必ず近所の理髪店に出向きカットするなど可能な限り地域との触れ合いを意識し機会をつくっている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して1年が経過して、運営状況も落ち着いてきた段階である。管理者を中心に職員全員で、利用者にとって自分の家となるような雰囲気作りに努力しており、その点への家族からの評価も高いものがある。運営推進会議には地域の代表者に加えて多数の家族が参加して、事業所の運営状況について意見交換が行われており、事業所と家族が協力して利用者を支えていく姿勢がうかがえる。建物の内部も明るく、居室は共用部分も清潔に保たれており、職員の毎日の努力を感じる。地域との交流も町会の行事に参加するなどしながら、少しずつではあるが前進して来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理解できているが日々の中で振り返る場がない	「人と人とのふれ合い」、「より良い地域福祉の実現」を理念の中に入れて、事業所の目指す地域密着サービスの方向を明確に表現している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の理髪店へ行く・町会と公園掃除・保育園交流・地域イベントの積極的に参加参加している。 日常的な交流としてはまだ限られた方のみにとどまっている。	町会や保育園や商店街など地域との交流を通じて付合いの度合いを少しずつでも深めて来ている。運営推進会議での地域の代表者の意見を参考にして、機会を見つけては交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所力としての実施経験が低く(昨年開所)地域貢献までできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内の現状(課題・悩み・苦情)を報告会だけにならないよう工夫しサービス向上に努めている	奇数月の土曜日を会議の開催と決め、地域からの参加者や家族がスケジュールしやすいように案内している。家族も多数参加して、事業所運営についての意見交換の場となっている。	認知症ケアの工夫など、日頃から職員が取り組んでいる事なども、議題に入れたら如何か。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことがあれば問い合わせるようにしている	行政の窓口担当とは介護保険や利用者個々の事情に応じて、事業所サイドの取組を説明して、必要に応じて行政の協力を得られる関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・行動制限をしないケアについてカンファレンスなど日常の中で理解しているが定義など深く全員が学ぶ機会がもてていない	職員は禁止事項等は頭では理解しているが、現場での事例を通じてお互いが話し合いながら知識を吸収し、皆で学習しながら防止に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス・日常の中で注意防止に努めているが高齢者虐待防止について全員が深く学ぶ機会がもてていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分な知識とは言えない、また活用までいたっていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時 質問について十分説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・定期的な家族と面談 ・御意見箱の設置 意見に対して運営推進会議で報告 反映している	家族の訪問時には、職員はいつも和やかに笑顔で迎えており家族からの評価も高い。本人の体調や暮らしぶりを詳しく報告している。電話やFAX・電子メール等を活用して速やかな報告に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見が出やすいよう スタッフ会議・親睦会などの機会をつくり努力している	職員はいつも明るく振舞っている。管理者は意見や提案があれば発言しやすくする職場作りにも努めている。家族からの職員に対する評価は高いものがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況を把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外研修→可能な限り受けるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淀川区のGH連絡会に参加し交流、情報交換をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にセンター方式シートの記入を家族へ依頼または可能であれば前事業所からの情報を依頼→安心・信頼を確保するよう努めている (コミュニケーションがしやすいよう)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式シートを活用しその当時に振り返りながら聞き受けとめるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	随時 カンファレンスにて検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人＝担当職員は時間をかけ関わろうと努力している段階である		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に面談の場をつくりより良い関係を築けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式シートにて情報収集に努めているが 継続性にはまだ至っていない	これまでの本人の生活歴について、家族からも出来るだけ詳しく聴き取り情報をまとめ、職員間で共有化を図っている。わかり易く、細かい点まで整理された情報(文書化)となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内を流動的に過ごされ交流できる場を持つようにしている(1・2F関係なく)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	限られた方にしかできていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望・意向の把握ができるような体制づくりをしている	事業所での新しい生活を、どのように過していきたいかを家族の協力を得ながら、本人の生活歴を詳しく情報収集して、得意な事、好きな事等を把握して介護支援に活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のセンター方式シート活用と定期的な家族との面談で把握していく努力をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり全員の暮らしの流れを総合的に全職員が把握にいたっていない (できる力の発見など)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的ケアプランを見直す以外も随時話し合う場を設け必要に応じてケアプランも更新させている	利用者ごとに担当職員を決めてケース担当としている。定期的カンファレンスを行って、家族の意向や医師の意見を参考にして介護計画書の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランと日々の記録の整合性については欠けているところがある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	狭い視野での取り組みになっており事業所の多機能化までいたっていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	限られた資源しか協働できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を伝え薬や内容の変化なども報告している また、かかりつけ医 家族 事業所で面談し本人・家族の希望を受け適切な医療を納得の上でうけられるようにしている	家族や本人の意向を優先して以前からのかかりつけ医による受診にも対応している。家族も納得する受診体制を取り、早期対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職 連携している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連絡を取り合ったり面会に向いて早期退院できるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できていない(現在かかりつけ医 家族 事業所との面談調整中)	終末期の対応への体制作りはこれからの優先課題であると認識している。現状は、家族と相談しながら医師のアドバイスを得て対応するようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的でないが行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内での訓練は行っているが地域への働きかけまではできていない	防火設備をはじめ、避難訓練やマニュアルの整備状況など対策面は定期的に行われている。	夜間の職員人員体制について、心配する家族もあると思われるので、機会を見つけて家族に説明する事が望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を傷つけないよう また心地よい対応が維持できるようにしている(振り返りとしてカンファレンスの場で検討している)	フェースシートの情報を充実させて、利用者個々の人となりを職員間で周知しながら、利用者の尊厳やプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の担当者が引き出すよう努力しているが職員の推測であったり十分ではない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れや職員の休憩時間に左右される部分がある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食 準備(食事一連の作業)はできていない	利用者の残存能力を活かしながら、食事の準備や片付けに参加してもらうようにそれとなく促している。楽しい食事になるような雰囲気作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を日々チェックしている 習慣や支援の工夫はご家族に相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 全員はできていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合わせたタイミングを掴むよう努力し(記録に残し)自立にむけ意識している	利用者個々の排泄パターンを把握しながら、自立した快適な排泄習慣が継続できるように、タイミングの良いトイレ誘導などの工夫が多く見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護職と連携・相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所が決めた曜日で支援している 時間帯はできる限り希望や体調面の配慮している	体調面に配慮をしながら、本人の希望に沿うように入浴支援を行っている。ゆっくりと落ち着いた入浴が出来るように心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣・体力面など 家族の意向も参考に配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的 副作用までの理解はできていない 飲み忘れ・誤薬について看護職と共に取り組んでる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割 楽しみの支援はケアプランに盛り込み 継続してサービスを提供できるよう意識している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の外出は支援しているが普段行けないような外出支援は限られた方しかできていない	本人の体調や天候を見ながら、出来るだけ外の空気に触れる機会を見つけるようにしている。季節の行事の外出等も企画して、出来るだけ皆が参加できるような場所選びに工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月々買い物などで使用できる金額は家族と話し合い決めている事業所管理である		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	限られた方にしかできていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快となる音(職員間会話)温度など指摘・意識しているが、ホーム全体の空間づくりとしては十分ではない	建物が新しく、まだ木のにおいがする感じである。モダンな設計で職員も動きやすいように思われる。居室やリビングが清家に保たれており、職員の努力が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い共用空間内 工夫が十分でない		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から在宅生活に近い環境設定をするよう家族と相談し同じような環境になるよう働きかけている	家族と相談しながら、本人が不安なく、落ち着いて過せるように、今までの生活とあまり変わらないように部屋作りにも職員の配慮が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるという視点での環境面工夫はまだ不十分		